

令和7年度（2025年度） 須坂高等学校 学校評価（部署別）

10須坂高等学校

領域	対象	今年度の具体的目標（評価項目）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	1 SAHと連携し、生徒の進路希望に対応した教育課程になるよう、更に研究をすすめる。	生徒個々の進路希望実現に向けた科目配置ができたか。	リベラルアーツ型単位制の理念に基づき、生徒個々の進路希望や興味関心に応じた多様な科目選択を実現できた。	A	多様化している生徒個々の進路希望に応じた科目選択について、さらに研究していく。
		2 SAHと連携し、多様な大学入試と新学習指導要領に対応し、より実践的な授業時間や科目の配置について研究する。	教育課程編成にあたって、多様化する大学入試を意識し、それに応じた授業時間や科目の配置について研究を進めることができたか。	共通テストに新たに加わった情報については、授業時間で適切に配置・運用し、対応することができた。次年度の科目選択においても、生徒たちが、これらを意識した選択をするための支援ができた。	A	大学入試改革の動向とその影響について更に注視を続け、教育課程への反映を研究していく必要がある。
		3 「主体的・協働的・深い学び」のあり方について、教育課程の面から検討していく。	教職員で情報を共有しながら、意識を喚起していくことができたか。	職員個々の研究や委員会の中での研究は行われているが、これらの情報共有については、課題が残るため、さらなる工夫が必要である。	B	校内研修などの機会を増やし、職員間の情報共有を深め、今後の課題と改善策を研究していく。
教育活動	進路支援	1 主体的な学習姿勢、および継続的計画的な学習習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションや面談を通して家庭学習の習慣を確立させる指導ができたか。 ・自主学習を支援するための学習環境の整備ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力差に対応するべく、与える課題の個別化や生徒の状況に応じた指導ができるよう、多くの教員が意識して指導できている。 ・放課後や土曜日の自習室開放、学習支援講座などで学習を応援する事業をおこなうことができた。 ・1, 2年時での学力の底上げに更に注力する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化された学習環境を整備するためにスタディサプリ等の学習サービスの導入等について検討をする。 ・学年や教科での生徒の学力や意欲の向上に対する先進的な取り組みを学校全体で共有していく。 ・生徒の学びに対する姿勢を高められるよう、教師自身が学びに対するポジティブな姿勢を生徒へ示していく。
		2 キャリア教育に関するイベントの充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを通じ、自分の将来を深く考える支援ができたか。 ・事前・事後の活動を充実させ、人生観の向上が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ツアーなど新イベントを実施できた。恒例行事にしていこうと、参加者を更に増やしていきたい。 ・進路行事は有意義ではあるが、教員負担が大きく、継続実施には更なる工夫が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇を利用した大学ツアーや研究室訪問など、高大接続を意識した活動を増やす。 ・引継ぎを丁寧に行い、多くの教員を巻き込むことで進路行事の負担感を減らし、活性化させていく。
		3 希望進路の実現に向け、適切な指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信や進路講話等により学年や時期に応じた情報を提供できたか。 ・教科指導を充実させることができたか。 ・小論文や面接の指導を充実させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な時期に必要な情報を提供することができている。ただし、不十分だと感じている保護者も一定数いる。 授業だけでなく、個別添削指導など手厚く指導できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡アプリ等を利用して、進路講話の内容や学年通信が保護者に確実に行き渡るようにしていく。 ・保護者が求める情報がどんなものであるのかリサーチを行う。 ・保護者からの相談受付担当を設置。

令和7年度（2025年度） 須坂高等学校 学校評価（部署別）

10須坂高等学校

領域	対象	今年度の具体的目標（評価項目）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	生徒支援	1 学校生活の中で生徒自らが個性の伸長を図りながら、好ましい人間関係を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自ら基本的な生活習慣を確立させるべく仕向けることができたか。 「いじめ」などがなく、生徒が安心して学校生活を送れるような支援体制作りができたか。 情報モラルに関する意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻調査、アセス(生活環境適応感尺度)を実施、それらに基づいて支援を行ってきた。 問題事案が発生した際には担任、学年、係等の連携により、該当事案への対処をは可ることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からコミュニケーションの大切さや人権意識の向上を生徒とともに考え、意識を高める活動を行っていききたい。
		2 日常の生活で直面するさまざまな課題に対して、主体的に判断して行動する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 私物や貴重品の管理を徹底させることができたか。 交通安全の意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 校風委員会とも連携しながら、自転車のヘルメット着用の啓発活動や、個人ロッカーの管理等について働きかけを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 須坂警察署と連携し、自転車に関する法令改正の周知徹底と、交通安全の啓発活動に引き続き取り組んでいく。
		3 自分の行動に責任を持たせ、精神的に成長・発達しようとする過程を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、校風委員会等と連携して、目標の実現をめざすことができたか。 保護者や関係機関との連携を密にした支援体制を作ることができたか。 「特別な事情のある生徒」に対して、個々の状況に応じて情報共有や支援ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様化に伴って、これまで以上に横断的な連携を強化し、対応する体制を整えることができた。 特別支援コーディネーターを中心に「特別な事情のある生徒」に対する支援の拠点としての支援室の整備、運営を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会とも連携しながら、生徒自身が考え、行動できる体制を強化していききたい。 多様な生徒を支援する体制を外部の関係機関の協力も頂きながら、整備していききたい。
教育活動	人権平和	1 基本的人権に対する認識を深め、主権者としての自覚を高めるとともに、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。	人権について現実の事象に学び、解決の方策を考え、行動しようとする意志を喚起させるような学習や研修の機会を設けることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 1学年では、SNSに関する講演やSSTを実施し、人権を尊重した人間関係構築のための意識や行動を学んだ。 全校を対象に人権教育講演会を実施した。フィンランド大使館勤務で著書多数の講師から「幸福度ランキング1位の国フィンランド～人が一番の資源～」をタイトルにお話しいただき、異文化から自文化や自己の在り方を問い直す機会となった。事前・事後指導としての人権平和通信の発行や講師とのアフタートークも実施し、継続的に問い考える場を持つことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校を中心とした日常の生活に、学びにより培われた人権意識がどのようにあられるかを継続的に観察していく。関係各所との連携の中で、自由な市民として世界に関わる主権者意識の涵養や、人権平和教育を推進していく。
		2 自主的・民主的な集団づくり、協働的な仲間づくり、いじめや差別をなくす関係づくりを日常の生活の中で図る。	仲間を大切にし、問題に気づくような気持ちを育ませる集団づくりや教育活動を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 授業・生徒会活動・部活動・特別活動等で対話・議論を行う場が多く設計されていた。そのなかで、他者の視点や感覚を尊重し、ともに考え、よりよくあろうとすることを志向する姿が見られた。 保健係と共同で通信を発行し日常的なコミュニケーションと人権感覚について知り実践する土台作りができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 同様の教育活動を継続し、視野を地域や世界に広げて考え対話する機会を増やしていく。

令和7年度（2025年度） 須坂高等学校 学校評価（部署別）

10須坂高等学校

領域	対象	今年度の具体的目標（評価項目）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	生徒会	1 より良い学校生活を送るためお互いの意見や立場を尊重し合いながら計画を立案し、その計画の実現を目指すよう支援をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会諸活動の目的や意義を再確認し、生徒総会等で議論を重ね、発展的な活動を行うことができたか。 ・執行部の提起を受けて、ホームルームで議論を深めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部など一部の生徒にとどまらず、全校生徒が生徒会活動について「知り」、課題や意義について「考える」機会を、HR討議や生徒総会を通じて議論し共有することができた。またそれによって、次年度以降の生徒会活動に新たな問題提起をすることができた。 	B	引き続き、「生徒原則」や「りんどう祭憲章」という本校独自の文化、またその策定に至った経緯等を踏まえ、継続して議論・昇華させていきたい。またそのための、草の根の議論の機会（HR討議やフリートークなど）を増やしていく。
		2 生徒会執行部、各委員会が連携して活動ができるよう生徒間の協働性を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・執行委員会が原案に基づいた議論ができていくか。 ・生徒会活動全般について、執行部が全体の内容を把握し一体となって執行できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・執行委員会では、原案を提出して全体で確認する手続きが取られている。 ・定例会以外でも臨機応変に執行委員会を開き全体で取り組みを確認している。 	A	・原案を提出して全体で承認する流れは十分に定着しているが、やや形骸化しつつある。執行部として責任を持って実施できるよう十分な議論を促していきたい。
		3 地域社会へ積極的に発信し、地域に開かれた生徒会活動を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・りんどう祭を主とする諸活動を、地域に発信しアピールできているか。またそれに耐えうる内容か。 ・地域の活性化を目指す生徒の自主的な活動に対する支援ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めて、SNS（インスタグラム）をツールとしてりんどう祭を外部へとアピールする試みを行った。ネットリテラシーなど十分に配慮した上で実施し、りんどう祭の認知・集客につなげることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・りんどう祭アピール用SNSについて課題を洗い出し、その活用法をさらに見出していけるよう支援していきたい。 ・生徒会として行う国際貢献活動に地域を巻き込んで盛り上げていきたい。
教育活動	図書・視聴覚	1 図書館利用の拡大を図り、読書習慣を定着させる。	図書館利用が増えたか。	授業での利用は昨年比で若干増加した。貸出冊数は昨年度並みであった。	B	図書委員会を中心に読書の啓発活動を続けたい。
		2 教科・授業、小論文に関する資料の充実を図る。	利用者の要望に応じることができる資料の充実が図れたか。	昨年度に引き続き、教科・授業・小論文に関する書籍および資料の収集に努めた。	A	利便性のある資料のさらなる充実と、活用促進に努めたい。
		3 快適な環境を整え、更なる施設の利用促進を図る。	自主学习などにも、多くの生徒が利用したか。	放課後は学年を問わず constants に利用された。	A	自主学习以外での施設の利用促進につながる施策について検討し計画したい。
		4 視聴覚室及び視聴覚教材の有効活用と各部署との連携を図る。	利用しやすい環境を整え、視聴覚室が有効に利用されたか。	授業教室や課外活動の場として利用されている。	B	来年度も授業教室や課外活動での利用が見込まれる。

令和7年度（2025年度） 須坂高等学校 学校評価（部署別）

10須坂高等学校

領域	対象	今年度の具体的目標（評価項目）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	保健	1 心身の健康管理を図る。	保健室への来室者への対応が適切であったか。また、感染症対策を含め、関係者や担当部署との連絡・連携ができていたか。	担任や関係職員・SCと連携を積極的にとることができた。救急時対応として、校内に簡易担架設置(3か所)増設し現在5か所となった。感染症対策については、オクレンジャーからの情報は全職員で共有できたが、それ以外の感染報告が迅速にできないところがあった。	B	心の相談が増加しているので、校内体制システムを充実させたい。緊急対応(救急車要請時)のために職員対象の救急法講習会の充実を更にすすめたい。次年度以降、感染症の校内システムの更新を検討する。
			学校保健安全法に則り、各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。	定期健康診断は計画通り実施し、その結果をもとに必要な生徒には、個別指導を行った。今年度は校舎改築により健康診断の会場の確保が大変だった。	A	集団スクリーニングの健康診断ではあるが、個人のプライバシーを尊重しながらの会場設営や検診時間を計画している。検診時の補助職員の充実が今後の課題になる。
		2 環境の管理を図る。	学校環境衛生検査を適切に行い、その結果を生かしたか。	学校環境検査は計画通り実施した。結果を保健だよりに掲載し生徒・職員で情報共有できた。学校薬剤師と連携し結果を生かした。	A	今年度校舎改築に伴い、冬季の教室内環境検査でCO2等が基準値を上回ったが、改善に結び付けられなかったため、次年度は早い時期から啓発活動をする。
			校内の危険箇所、安全に配慮が必要となる箇所の確認・改善ができたか。	学校安全衛生委員会と連携し、チェックリストで毎月確認した。	A	特に緊急性が必要な施設・箇所は優先的に予算措置をお願いしていく。
		3 保健指導を充実させる。	感染症対策を含め、自身の健康課題に対して、興味関心をもてるような広報活動ができたか。	保健だより、保健関係の掲示物で継続的に広報活動を行っている。リアルタイムで感染状況や保健室来室者状況を配布し生徒が自ら考え行動できるようにした。	A	継続して広報活動を行い保健指導の一層の充実を促す。
			・保健委員会等による広報活動を行ったか。 ・保健委員会の活動支援ができたか。	保健だよりで継続的に広報活動を行った。(継続テーマは感染症)クラスマッチ前は救急救命の胸骨圧迫法をトレーナーで練習した	A	継続して生徒の自主的活動を支援する。
教育活動	PTA	1 PTA活動を通じて、学校と保護者、及び保護者間の情報交換と親睦が深められるよう努める。	・PTA諸会議の案内や活動に関する情報を、適宜会員に周知できたか。 ・PTA総会・学年PTAに、保護者が大勢参加したか。 ・学年クラスの保護者の意見を、全体で共有できたか。 ・職場見学や就業体験に、保護者が大勢支援したか。	・会合案内や情報発信は、学校を支援する親の姿を生徒に伝えるため、書面配布とした。 ・参加者は前年度並みで、参加予定調査より一割程度少ない人数が参加していた。 ・評議員会で保護者アンケート集計を報	B	・会合での対話の活性化に努める。常任委員会では多くの意見が出されていた。 ・PTA総会に先行して行われる、クラブ活動懇談会の開催時間を調整する。 ・保護者に向けて、引き継ぎ就業体験への支援をお願いしていく。
		2 PTA研修会が保護者にとって、本校生徒の生活や進路指導についての理解と研究を深める機会となるよう努める。	・PTA研修会の案内や講師に関する情報を、適宜会員に周知できたか。 ・PTA研修会に、保護者が大勢参加したか。 ・来年度が隔年実施となる全体講演会の在り方や講師の選定について、保護者の意向を集約できたか。	・7月にオクレンジャーにより、来年度研修会の講師選定アンケートを行い、約80名の保護者から回答を得た。 ・アンケート結果をもとに常任委員会の審議を重ね、要望の多かった自己実現を探究する本校卒業生に講師を依頼することができた。	A	・質問要望を事前に調査し、意見交換を活性化させた二学年修学旅行研修会の取り組みに鑑み、5月PTA総会の前から講演会に関する意見集約を行う。 ・講師は探究活動を重ねた元生徒会長なので、必要に応じて生徒会とも連携する。

令和7年度（2025年度） 須坂高等学校 学校評価（部署別）

10須坂高等学校

領域	対象	今年度の具体的目標（評価項目）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校運営	教務	1 学校が円滑に運営されるように努める。	校内の諸行事を適切に計画し、運営できたか。	・各部署と連携しながら、諸行事を円滑に運営することができた。	A	早めの計画立案を心がけ、今後も引き続き、各部署と連携しながら計画を進めていく。
			学校内規を見直し、整理することができたか。	内規の内容について点検は行ったが、今年度は訂正箇所はなかった。	B	現状に適するように、常に見直しをしていきたい。
		2 本校の活動や校内の様子をを外部に発信し、本校への一層の理解を深めてもらう。	公開授業、体験入学、学校説明会、中学校への個別説明会を行い、多くの中学生・保護者へPRすることができたか。	体験入学の参加者は422名で、昨年を大きく上回った。本校生徒との懇談を設けた点など、参加者の評判も良く、本校の特徴や魅力を伝えることができた。	A	多くの中学生に参加してもらえよう、日程、PR方法も工夫していきたい。また、参加者の満足度を高められるように、さらに内容の検討をしていく。
			ホームページ、パンフレット、須坂たよりなどによって、本校活動を地域の方に知っていただくことができたか。	ホームページの随時更新、須坂たよりの月1回定期発行を行い、本校活動を外部に向けて発信することができた。	A	須坂たよりは、引き続き月1回の定期発行を続けていきたい。時機に応じたホームページ更新を行うために、担当は複数人で対応できる体制にしていきたい。
学校運営	情報処理	1 情報処理機器及びネットワーク利用による校務の合理化の推進を図る。	校内ネットワークを安定的に維持管理するとともに、各種情報機器のトラブルに迅速に対処することができたか。	情報機器の増加や経年劣化により、トラブルの発生件数が急増している。授業や校務に支障が出ないよう、できるだけ迅速な対応を心がけた。	B	長期使用しているプリンターなど、修理対応ができない機器が増えている。適時の修繕や更新を計画していく必要がある。
			統合型校務支援システムの運用を円滑に行うことができたか。	校内掲示板機能、出欠席入力機能および成績処理機能を利用し、操作性や問題点を確認してきた。	B	既存のデータ処理システムとの連携と校務支援システムへの移行を円滑に進めていく。
		2 情報処理機器及びネットワークを利用した教育活動の推進を図る。	授業や各種講演会、研究授業等で、校内のWi-Fi環境や生徒が保有する学習用タブレットの情報機器を活用できたか。	・全生徒が学習用タブレットをもつ環境のもとで、各教科の授業でICT機器を有効利用できた。 ・オンライン授業やWeb会議等で情報機器を活用している。	A	全生徒が学習用タブレットをもつ環境を生かし、全教育活動において機器を有効に活用できるよう、継続して研究を深めていく。
			デジタル教材や機器の導入・更新を進め、教育活動におけるネットワークの活用を推進できたか。	Web会議の急増、オンライン授業の多様化に対応するための機器の導入や、利用に関する研修、サポートを随時実施してきた。	A	校内のデジタル環境の急激な変化と多様化に対応できるよう、見直しをもった機器の導入・更新を今後も続けていく。
		3 情報の管理という面で個人情報や著作権に関して職員や生徒へ周知を図るとともに、ホームページを通じた適切な情報発信をおこなう。	個人情報や著作権保護、セキュリティ確保の大切さを職員と生徒に伝えたか。	・年度当初に周知を図った。 ・セキュリティを確保しつつ、公務を円滑に遂行できるよう、各種研修会を行った。	B	今後はクラウドサーバーの利用が進むと予想される。データを安全に管理し活用していく方策を検討していく必要がある。
			学校ホームページについて、各係から依頼された話題を迅速にHPにアップすることができたか。	行事が行われるたびにホームページを更新することができた。	A	閲覧しやすいようにホームページがスマートフォン対応になるように刷新する。